# 2020年に向けて受動喫煙防止法制定を目指す
## －2016年世界禁煙デー記念イベント開催－

平成28年５月31日（月），日本医師会館小講堂（東京都文京区）において「2016年世界禁煙デー記念イベント受動喫煙防止法について真剣に考えよう」が開催され，151名の参加者があった。

冒頭，公益社団法人日本医師会会長の横倉義武氏，健康日本21推進全国連絡協議会会長の下光輝一氏，厚生労働省健康局健康課課長の正林督章氏より挨拶があった。また，タレントのＪＯＹ氏が，「2020年までに１人でも喫煙者を減らし，空気のきれいな日本をつくろう」と呼びかけ，「どんなに可愛くてもたばこを吸う女性は恋愛対象外」などユーモアあるメッセージで会場を賑わしていた（写真１）。

写真1　日本医師会館に「女医」がやってくる？いえいえ私はタレントの「ＪＯＹ」です，とのつかみから始まったメッセージ

つづいて，地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター長の中村正和氏より，「わが国のたばこ警告表示の強化にむけて―現状と課題」というテーマで講演があった。諸外国と比較した日本の警告表示の遅れを指摘され，国際標準である画像付の表示等，今後求められる警告表示を提案がなされた。そして，岡本総合法律事務所弁護士の岡本光樹氏より，「受動喫煙の他者危害性 - 法的規制強化の必要性」というテーマの講演があった。諸外国と比較し受動喫煙防止の法整備が遅れている現状を指摘され，近年の判例も紹介しながら，罰則付きの法整備を早急に行うことを訴えた。

その後，参議院議員の松沢成文氏より，神奈川県知事時代の受動喫煙防止条例制定以来の受動喫煙防止に向けたご自身の活動や，受動喫煙防止法及び条例の制定に向けた国会や自治体の現状，今後の展望等の話があった。

最後に，公益社団法人東京都医師会会長の尾崎治夫氏より決議文（資料）の発表があり，拍手をもって承認され，島尾たばこと健康問題NGO協議会会長の閉会挨拶をもって盛会裡に終わった（写真２）。（尾高）

写真2　熱のこもった演者の皆様

### 資料　決議文

決　議

ＩＯＣ（国際オリンピック委員会）は1988年以来、オリンピック大会における禁煙方針を採択し、会場の禁煙化とともにタバコ産業のスポンサーシップを拒否して、2010年７月にはWHOと「タバコのないオリンピックをめざす協定」にも調印している。ＩＯＣの方針に伴い、バルセロナ、アトランタ、シドニー、アテネ、北京、ロンドン、リオデジャネイロ、ロシアのソチ、韓国の平昌など、オリンピック開催都市には分煙を許さない、すべて罰則付きの「受動喫煙防止法」が制定されている。（北京市のみ「条例」）

世界一喫煙率の高い中国ですら、北京オリンピック開催のために、北京市他６都市に「受動喫煙防止条例」を制定したことは記憶に新しい。

このため日本国においても世界の潮流に遅れることなく、また、健康長寿社会実現のためにも、次の内容を実現すべく、関係者の総意をもって決議する。

一、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向け、開催までに国際標準である分煙を許さない「受動喫煙防止法」を制定すること。

一、国民の健康は、未来の日本国において、国力を支える礎であり、このため、政府機関は、各世代におけるタバコ対策に重点をおいた健康づくりの環境整備を最優先課題として取り組むこと。

平成28年５月31日

世界禁煙デー記念イベント参加者一同